

第2回那覇市社会福祉法人等施設連絡会（首里地区）のまとめ

2020年9月14日（月）午後1時30分～3時
那覇市総合福祉センター老人憩の家大広間

構成施設	ゆうなの会	次長	金城満	
	若杉福祉会	理事	屋宜貢	
	葦の会	室長	名嘉真朝春	三枝君枝
	偕生会	園長	上原裕	
	からし種の会	理事長	棚原信子	棚原和歌子
	社協	会長	新本博司	
		常務	宮城哲哉	
		局長	新垣佳子	
CSW	仲程大輔	神田貞幸	玉城理恵	（駐車場）
	垣花愛	（受付）	上原かおり	（写真）
担当	山城章			



第2回那覇市社会福祉法人等施設連絡会（首里地区）の様子



沖縄県社会福祉協議会地域福祉部主任 大城利公氏

社協と社会福祉施設等が連携した地域課題への対応について
小規模法人ネットワーク事業（ちゅいしいじい事業）について概要

1. 目的 山積する福祉課題に対して社会福祉法人等の創意工夫に基き地域貢献が求められている。本事業は、地域の様々な福祉ニーズに対応した地域の福祉サービスの充実を目指し、単独で発揮しにくい地域貢献の取組を複数法人が連携したネットワークの構築を推進します。
2. 事業内容 ①法人間連携の連絡会の開催②複数法人の連携による協働事業の立ち上げ③福祉・介護人材確保定着の取組推進④社協CSWとの連携

意見交換 内容

(石嶺児童園)

- ・ グランドゴルフで会場を地域の関係者に提供
- ・ 発達障害の問題に対し、専門機関と連携し勉強会をしてみてもどうか。
- ・ 職員の勉強会を開催している。専門職のノウハウを地域に共有したい。



偕生会指定管理 石嶺児童園園長上原裕氏

那覇市内の施設の概要

特別養護老人ホーム 那覇偕生園

那覇偕生園ケアプランセンター

那覇偕生園デイサービスセンター

「最良の福祉サービスの提供を通して、偕（とも）に生きる地域社会を創造し、もって社会に貢献する」を基本理念とし家庭的なあたたかいケアを心がけ、利用者の自立支援と主体性を尊重します。

利用者の人間性、自主性を重んじ、利用者一人ひとりに沿った介護サービスの提供を公正公平のもとに行ってまいります。

また、地域に施設機能を開放することにより常に地域との交流の場を設け、地域社会と偕に生きることを実践してまいります。



若杉福祉会 理事 屋宜貢氏

家庭的な雰囲気の中で、一人一人を大切にした保育を行っています。若杉保育園は、浦添市と隣接する首里大名町の閑静な住宅街に位置しています。子どもたちが、心身ともに健やかに成長され、杉の木のように大きく高く天まで届くように、真っすぐな心で伸び伸びと健やかに成長するように、との思いを込め、若杉福祉会を設立いたしました。子ども達の豊かな育ちを願って、与えられた環境を最大限に活用し、一人一人が伸び伸びと育つよう、「丈夫な子」「明るい子」「素直な子」を目指した保育に取り組んでいます！

(若杉福祉会)

- ・ 大名児童館では無料塾、食事の提供・大名まち協の事務局として連携。
- ・ 地域で世代間交流のため、星空、音楽鑑賞、コミュニティづくり
- ・ 木を切ってほしいなど、生活課題の相談も来る。
- ・ 卒園してからの地域でのつながりが重要。保護者会が地域と繋がりを意識している。地域で育つ子を地域で育てる地域づくり、環境づくりを拡げたい。
- ・ 障害分野・高齢分野にも取り組んでいきたい。

からし種の会（障害福祉サービス事業所アトリエ種子）

- ・まち協と社協とのつながりから取り組みを考えている。
- ・昔は社協主催のサマーキャンプが盛んだった。それを基に活動している。
- ・地域のために何ができるかを、常に考えて活動していきたい。
- ・クッキー等を提供し、地域と繋がっていきたい。



昭和63年（1988）

精神障害者の社会復帰を目指し那覇市精神障害者家族会「ふくぎの会」を設置主体（母体）とし「共同作業所アトリエ種子」を開所

昭和17年（2005）

社会福祉法人格を取得

社会福祉法人からし種の会「小規模通所授産施設アトリエ種子」として新たなスタート

平成20年（2008）

障害者自立支援法施行に伴い、多機能型事業所「障害福祉サービス事業所アトリエ種子」へ移行（精神・知的・身体）を受け入れる。

令和2年（2020）

働きづらさを抱えた障がい者を積極的に受け入れ、住み慣れた場所で自立した生活が出来るよう、就労継続支援B型、自立（生活）訓練を行っている。石嶺小区まちづくり協議会や那覇市社会福祉協議会等の関係機関との連携・協力し、地域福祉の推進に努めている。

社会医療法人葦の会法人連携室長名嘉真朝春氏
看護部室長三枝君枝氏

病院の「地域密着の全人医療を目指して」

地域の皆様に支えられて今日まで活動してまいりました。これからもオリブ山病院での入院治療や通院、デイケア等の医療活動に加えて在宅で介護されている方々が必要な医療・看護・リハビリ・介護を受けることができるように、介護老人保健施設「オリブ園」を併設し、さらに地域に住む方々の疾病管理と疾病予防・介護予防さらに健康増進等を支援するために石嶺の住宅地域に「オリブ山在宅総合ケアセンター」を開設しています。



葦の会（オリブ山病院）

- ・ 那覇市で唯一の社会医療法人。離島での医療もカバーしている。
- ・ 石嶺まち協に所属している。
- ・ 那覇市内での孤独死がある。グループホームから認知症高齢者が行方不明。子供から大人まで、地域のネットワークで無事に保護できた。ネットワークの大切さを知った。
- ・ 石嶺中学校で福祉体験を実施している。→地域の将来を担う、福祉教育
- ・ 年金支給日に、銀行、JAにて健康相談、血圧測定→健康に対する自己管理の向上
- ・ 内科があるが充実してきている。医師のノウハウを地域に還元したい。
- ・ 地域包括ケア病棟を運営。
- ・ 児童精神の先生が勉強会を地域と連携して開催出来たらいいのでは。

社会福祉法人ゆうなの会大名老人ホーム

- ・ 認知症サポーター養成講座を依頼があれば開催
- ・ 松川小の子供たちに、福祉の仕事を説明→将来の担い手に
- ・ ホーム喫茶（月1回施設を地域に開放し、食事を楽しむ）
→集まりからボランティアや地域の方の居場所となっている。
- ・ 介護予防教室も開催。
- ・ 高齢者施設での職場体験することで、社会復帰できるきっかけづくり
→受け入れる。
- ・ 地域講話 栄養士などが栄養について話していく。



ゆうなの会 老人ホーム大名法人事務局

次長金城満氏

地域と連携した高齢者福祉の拠点として高齢者と家族の健やかな生活に貢献します。老人ホーム大名は沖縄のベストプラクティスとして、全国で輝ける存在を目指します。



那覇市社協常務理事 宮城哲哉氏

食糧支援運動が広がりを見せているが、地域にもれなく浸透させていくためには、身近な地域での福祉拠点が求められている。



相談援助実習性4施設機関から6名の学生が、福祉人材育成の一環で多職種連携の在り方を学んだ。



那覇市社協 会長 新本博司氏
今回の会は各社会福祉等施設と社協がつながったことが取り組みを進めるうえで大きな成果になった。



那覇社協CSW主任 仲程大輔氏（左）
CSWと社会福祉施設の連携の意義を説明
首里地区担当主事神田貞幸氏 意見交換進行

ごちゃませ福祉

- ・子どもからお年寄り、障がい者までの福祉を勉強会
- ・社会福祉法人でできることは沢山ある。
- ・ボランティアだけでなく、対価を付けることで高齢になっても出番を与える。
→ボランティアの押し付けになってはよくないと考えている。

今回の会は各社会福祉等施設と社協が繋がったことが
取り組みを進めるうえで大きな成果になった。